

「広国 PARK」の活動と社会人基礎力向上への試み

広島国際大学心理科学部臨床心理学科 西村 太志

はじめに

広島国際大学心理科学部では、2011年10月から学生主体のラジオプロジェクト「広国 PARK」を展開している。この取り組みは当初、東広島市を放送エリアとするFM東広島で、毎週木曜日に放送するラジオ番組として開始した。この放送は2015年1月現在も継続している。加えて、2013年度より社会人基礎力向上の一環として、他のラジオ局への出演などにも取り組んでいる。本論文では、「広国 PARK」の活動が社会人基礎力向上への取り組みにどのように結びついたのであるかを報告する。

1. 「広国 PARK」とは

1.1 FM東広島「広国 PARK」の概要

「広国 PARK」は、東広島を放送エリアとする「FM東広島」(89.7MHz)を通して、毎週木曜日19時より放送している。放送開始当初の意義、制作概要については、川上・久次・西村(2013)で報告している。放送を通して学生に獲得してもらいたい能力などは当初と大きく変わりはなく、心理科学部での様々な学びを、実践的・能動的に活用する場として機能しているといえる。

2014年度より、運営体制に一部変更があった。発足当初より運営に携わった心理科学部コミュニケーション心理学科川上隆史准教授が広島国際大学を退職した。また、心理科学部の2学科(臨床心理学科・コミュニケーション心理学科)の学生が、学科の垣根を越えて放送に携わる体制が確立され、毎回の放送チームも両学科の学生が混成であることが増えたため、教員も学部全体での運営体制をとることとした。統括教員は西村が担当し、局との事務的連絡やスケジュール管理等の全体的業務を担当した。放送前の学内での台本読み合わせなどは、コミュニケーション心理学科久次弘子教授が従前どおり担当し、学生の指導にあたった。

また、毎週の放送に際して、企画・取材段階のアドバイスを、臨床心理学科宮崎龍二講師、正司強講師、森本浩志助教、大島聖美助教、コミュニケーション心理学科青木研准教授、大藤弘典講師が交代で担当した。加えて、コミュニケーション心理学科のゼミ活動の一環として、学生と教員が取り組むこともあった。また企画へのアドバイスや英語添削などに、他の心理科学部教員も多く協力した。学部全体での運営のため、適宜森本修充心理科学部長、岩田昇臨床心理学科長、関口彰コミュニケーション心理学科長と全体的な協議や調整を総括担当の西村は行った。また、FM東広島との経費に関する連絡、毎回の学生送迎用バスの手配、大学ブログへの情報提供にあたっては、広島国際大学東広島学部事務室のスタッフによる多大な協力を受けた。このように、発足当初と比べて多くの教員がこのプロジェクトに関与することになり、学部教育の中核に位置づけられることとなった。

また2014年4月より、提供クレジット読みも学生が行う形とした。放送中は、ミキサーとして局スタッフ1名が常駐し、学生に適宜指示を送っている。放送を支障なく実施するためには、局スタ

ップのサポートは不可欠であり、この点でも協力体制を構築している。なお、2014年10月より、FM 東広島の編成全体の変更のため49分の番組となり、毎週木曜日19時から19時49分の放送となった。

2014年末時点で、学生が主体となって実施した放送の回数は通算134回を数えた。長期休暇中などは局スタッフによる放送や、教員のゲスト出演などを実施し、通年で「広国 PARK」が放送されている。

1.2 FM 東広島以外との事業

「広国 PARK」の活動が継続する中で、FM 東広島での放送に関わる活動以外にも展開することとなった。それらの概要を以下に記す。

東広島市の公募事業への申請・採択

2012年度、東広島市の「学生のまちづくり支援事業補助金」への申請を行い、審査（学生のプレゼン含む）を経て採択された。当該事業では、FM 東広島や広島国際大学学生課の協力の下、2012年度の広島国際大学東広島キャンパス大学祭で「広国 PARK」の公開出張生放送を実施した。来場した市民へのインタビュー、東広島市黒瀬支所長（当時）のゲスト出演などの内容を放送した。

2013年度は、「東広島市シティプロモーション事業」への補助金申請を行い、審査（学生のプレゼン含む）を経て採択をされた。「東広島市シティプロモーション事業」は、東広島市の魅力を広く市内外に伝える事業に対して、審査の上認定を行うものである。認定された事業に対しては、市ホームページや市政だよりへの掲載、認定マークの使用許可、補助金の交付（補助金なしの認定もある）などが行われる。東広島市外の人々に、東広島市の魅力を学生の視点から広く伝える番組を企画した。

2014年度は、「東広島市シティプロモーション事業」に申請を行い、書類審査の上採択された。補助金の申請は行わず、ホームページへの情報掲載や認定マークの使用許可を得た。

これらの事業の申請は、学生が代表者として行っており、市の担当者との調整なども行っている。このような活動を通して、学生は地域社会とつながった活動を行っていることを認識することができる。

東広島市以外のコミュニティ FM 局での出張放送

上述した2013年度の東広島市シティプロモーション事業として、2013年9月に出張放送を2回にわたり実施した。広島県廿日市市を放送エリアとする「FM はつかいち」（76.1MHz）では、2013年9月2日19時から1時間、「NoriNori MONDAY ナイト」という番組にゲスト出演した。当日は出演者以外にも記録係などを含め7名の学生が放送局に出向いた。この番組は局のレギュラー番組であるが、1週間前の同番組での告知や直前番組での告知などを行い、本番も学生からの企画を反映し、ほぼオリジナルの番組として放送をした。

また、山口県下関市を中心とするエリアで放送をおこなっている「come on !FM」（76.4MHz）では、2013年9月11日20時から1時間、「くふうに満ちてる東広島 広国 PARK in 下関」を生放送した。1時間の特別番組として企画し、進行役の局スタッフ1名と学生5名が放送に出演した。

廿日市市での放送とは異なり、特別番組として企画し事前にスポット CM も放送した。また前日には、地元新聞紙である山口新聞にも紹介された。

主な放送内容はいずれもほぼ同じであり、東広島市長へのインタビューや酒祭りの紹介を通して、東広島市の魅力を学生視点で伝えることを目指した。

広島 FM「大窪シゲキの9ジラジ」への出演

2014 年度は、広島国際大学の学内予算および学生チャレンジプログラムへの申請と採択を経て、広島 FM（広島県全域がエリア、広島局 78.2MHz）の「大窪シゲキの9ジラジ」へのゲスト出演を3回行った。初回は2014年8月19日の21時45分頃から、「広国 PARK」の活動紹介などを3人の学生がスタジオに入り行った。第2回は2014年8月26日の21時45分頃から、リスナーの疑問を心理学的に解説するというテーマを示し、疑問と解説例を出演した3人の学生が示し、リスナーの疑問を番組まで送ってもらうことをアナウンスした。第3回は2014年9月2日21時45分頃から、前回募集したリスナーからの疑問2つに対して心理学的な解説を3人の学生が行い、その後大学オープンキャンパスの紹介を別の学生1人が行った。

加えて、初回放送前から3回目放送前まで、5回にわたり20秒のCMを放送した。CMは学生が出演し、広島 FM の機材や録音室を用いて録音した。

2. 社会人基礎力とは

社会人基礎力とは、経済産業省が2006年から提唱している学生に求める能力である。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義されている。企業や若者を取り巻く環境変化により、特にこれから社会に出る大学生に対して、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことの必要性が指摘されている。

「前に踏み出す力」は、一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力とされ、主体性や働きかけ力、実行力の要素から構成される。「考え抜く力」は、疑問を持ち、考え抜くことであり、課題発見力、計画力、創造力から構成される。「チームで働く力」は、多様な人々とともに目標に向けて協力する力であり、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力から構成される。これらは、典型的な座学の講義では十分な修得は難しく、問題解決型の実践的学習を通して修得することが主に求められている内容である。

経済産業省の提唱を受け、各大学が近年この能力の向上を謳った様々な活動を展開している。また、それらの活動をコンテスト形式で発表し、優れた取り組みについての表彰と情報共有を行う取り組みが行われている。それが、社会人基礎力グランプリ（GP）である。2008年から実施されており、全国各地で予選大会が開催され、地区予選の優秀校が全国大会に出場することとなっている。2013年度より、全国の大学教職員の有志団体である「社会人基礎力協議会」が主催し、経済産業省や各種団体が共催、協賛という形式で実施されている。社会人基礎力 GP では、各出場校が教員（1名）4分、学生（3名以内）10分の持ち時間で、審査委員との質疑応答を通して、各校の取り組み

が、社会人基礎力の向上にどのように寄与したのかについて発表する。審査委員の審査によって、地区予選の優秀校と準優秀校が選出される。

3. 「広国 PARK」の「社会人基礎力 GP」への出場

「広国 PARK」プロジェクトは、2013 年度（社会人基礎力 GP2014）と 2014 年度（社会人基礎力 GP2015）に出場した。これは、広国 PARK の活動でも特に東広島市以外での活動に焦点を当てて、社会人基礎力の向上に寄与した内容を学生と教員で発表したものである。

2013 年度の地区大会は、2013 年 12 月 8 日に高松市の高松サンポート合同庁舎で開催された。「広国 PARK」プロジェクトは、教員 1 名（西村）学生 3 名（臨床心理学科 2 年松尾里佳、3 年越智晴菜、コミュニケーション心理学科 3 年平佐直輝）が「ラジオ番組制作で培われた社会人基礎力～“地域に愛されるラジオ番組づくり”への挑戦～」という題目で発表を行った。「広国 PARK」の新たなチャレンジとして、2013 年度の東広島市シティプロモーション事業による、廿日市市と下関市での出張放送の実施内容と、その過程においてプロジェクト参加学生内で生じた葛藤や困難を紹介し、最も身についた社会人基礎力として「チームワーク」を挙げた発表を行った。特に、それまで学生が行ってきた FM 東広島での放送と同時並行で、他の放送局での特別放送を成立させるための準備の難しさ、参加メンバー内の意識の違いによる葛藤とそれを乗り越えるためにチーム内での情報共有を行い、放送を行うことができたことが語られた。地区大会への出場チームは全 5 チームであった、審査結果は、優秀賞と準優秀賞には選出されず、後日奨励賞の賞状を授与された。

2014 年度の地区大会は、2014 年 12 月 7 日に岡山市の岡山商科大学で開催された。「広国 PARK」プロジェクトは、教員 1 名（西村）学生 3 名（コミュニケーション心理学科 2 年堀田昂平、釘宮この実、臨床心理学科 3 年松尾里佳）が「リスナーとのコミュニケーションの新たな挑戦～「広国 PARK」をもっと知ってもらうために～」という題目で発表を行った。前年度同様、東広島市以外での放送プロジェクトである広島 FM「大窪シゲキの 9 ジラジ」への出演の経緯と、知名度の高い番組への出演への期待と葛藤、CM 作成に関する学生からの提案の実施、当日の放送でリスナーと双方向の交流を行うための工夫と実際の成果、今後さらにリスナーと交流し「広国 PARK」の知名度をさらに上げるための方策などが語られた。特に、自分たちの大学での学びである心理学を題材に、中高校生のリスナーの日々の疑問を募集し、それに対する解説をリスナーにわかりやすく伝えるための工夫や、CM 作成時の放送局の提案とそれに対する学生からの改善策の提案と実行ができたことが語られた。地区大会への出場チームは全 7 チームであった。審査結果は準優秀賞であり、全国大会への出場は逃したが前年度よりよい成果をあげた。

それぞれの発表で、学生はプロジェクトを通して自らが得た社会人基礎力について考え、その意義を示した。両方に共通する社会人基礎力は、「チームワーク」と「考え抜く力」である。「チームワーク」は、プロジェクトの中で複数のメンバーで課題を行う上では必要不可欠な要素である。特にラジオプロジェクトは、一人の力で成り立つわけではない。また当日マイクの前で話す人数は限られるが、企画や CM 制作、取材など多くのメンバーが関与する。それぞれの学生のコミットメントの強さは当然異なるが、その中で、参加した学生が満足感や達成感を得ることができる活動とす

ることが必要である。またそのことを通して、お互いの立場を尊重し、協力した作業を進める必要がある。その点において、ラジオ番組制作は的確なプロジェクトであると考え。「考え抜く力」は、放送を成立させるための企画立案能力に関わる部分である。2013年度の出張放送は60分の特別番組で、自分たちが話したいことの多くを取り入れた番組構成が可能であった。しかし2014年度の出張放送では出演可能時間が約5分程度と制約があり、話すことができる内容が限定された。その中で必要不可欠な内容を含めつつ、リスナーに興味を持ってもらう放送内容にすることは、相当な計画と構成の精緻化、放送前の物理的・心理的準備が必要である。これらの経験は、将来社会に出て仕事を行う上で必要な能力の涵養に寄与するものであったと考える。

4. これからの「広国 PARK」の課題

第一節で示したとおり、「広国 PARK」はFM 東広島で130回を超える生放送を行っており、地域や学内での認知度も開始当初と比べて確実に上がっていると思われる。また、廿日市市や下関市のコミュニティ FM 局での出張放送や、広島 FM の番組への出演を通して、様々なラジオ制作の現場を知り、学生はそれぞれの特徴を把握した上で自分たちの放送を行うことの難しさとおもしろさを感じてきたらう。また、ラジオ番組制作を通して社会人基礎力の向上を図ってきたことは、社会人基礎力 GP の地区準優秀賞の受賞という形で一つの結果を挙げた。しかしながら、「広国 PARK」が今後もプロジェクトを継続していくためには、プロジェクトに中心人物として取り組む学生リーダーを複数名常に育成することと、知識の効果的伝承が課題である。

現在「広国 PARK」に参加する学生の中で、常時活動に取り組んでいるのは15名程度である。彼ら彼女らは、マイクの前で話すこと以外にも、ディレクターやタイムキーパー、取材などの活動も体験し、多くの経験から社会人基礎力の様々な要素を身につけているように見受けられる。しかし、彼ら彼女らもいずれ卒業する。現状では、学生は就職活動や卒業研究のため、3年次終了時点でいったんプロジェクトを離れている。そのため、中核となって活動する学年は2年生が主である。学部として推奨するプロジェクトであり、多くの学生が参画する体制の構築を目指しているが、低学年ではこのプロジェクトの意義が十分伝わらないこともある。また、学生自身の継続した参加への意識が高まらないことも多々あり、一度のみの参加で終わる学生もいる。毎回毎回異なる学生が放送には参加するが、「広国 PARK」に携わる学生がプロジェクトの意義や目的、得られる能力を共有することが、放送継続に必要な不可欠である。また継続して実施していくためには、学生が身につけた知識や経験を後輩に効果的に伝承することも必要である。今後、運営体制やカリキュラムの見直しの中で、「広国 PARK」プロジェクトの体系化をはかっていくことが必要であると考え。

ラジオ番組制作を通じた社会人基礎力向上の取り組みは、本学部独自のものである。2015年度以降の心理学部でも継承され、心理学の学びを応用的に活かしたプロジェクトとなることが期待される。これまで参加した学生と、現在参加している学生、今後参加する学生すべてにとって、また関わるすべての教職員にとって意義のある活動となるよう、さらなる発展と継続が望まれる。

引用文献、URL

川上隆史・久次弘子・西村太志 (2013). メディア実践を通じた学びに関する一考察 『広国 PARK』の取り組みから. 広島国際大学心理科学部紀要, 創刊号, 81-93.

経済産業省 (2006). 社会人基礎力.

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (2015年1月12日閲覧)

2014 社会人基礎力グランプリ

<http://www.takushoku-u.ac.jp/career/kisoryoku-grandprix.html> (2015年1月12日閲覧)

2015 社会人基礎力グランプリ

<https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/> (2015年1月12日閲覧)